



### 東町の神楽、11市町村とともに 「にいがた冬・食の陣 当日座」で見事舞う

2月7日・8日、新潟市内4会場で「にいがた冬・食の陣 当日座」が開催され、鍋や寿司、そばなど、冬の新潟の味覚を楽しもうと、多くの人たちで賑わいました。

この両日、古町会場の古町モールでは、新潟市はじめ合併協議を行っている12市町村の伝統芸能が披露され、8日には、午前と午後の2回、当町から東町神楽保存会などのメンバー19名が参加し、公演を行いました。

笛や太鼓に合わせて、4人で剣や鈴などを持って華麗に舞う剣舞に続き、神楽が登場。そこへ天狗も加わり、躍動感あふれる舞に、行き交う人も足を止めて見入っていました。メンバーから「他の地域の人たちから見てもらって、演技にも熱が入った。寒かったが、大変良かった」と、大勢の観衆の前で舞った感想が聞かれました。



写真上…食の陣で披露された東町の神楽舞

写真中…食の陣での横越町コーナー

写真下…にいがた座で披露された上町の神楽舞



### 多くの人たちに横越町をアピール

食の陣が行われた古町モール内には、横越町のコーナーが設けられ、横越町の紹介パネルが展示されました。

また、町特産の長いもを使用した「とろろまんじゅう」が販売され、完売するほどの盛況ぶり。「他のまんじゅうと違う食感で、おいしい」と評判でした。

### 上町神楽保存会による伝統の舞 にぎわうNEXT21で披露

2月7日・8日、新潟市古町のNEXT21を会場に、芸能プラザにいがた座が開催されました。

この催しは、様々な年齢層に広く郷土芸能を見て知ってもらい、伝承保存することを目的に、新潟市と新潟市芸術文化振興財団の主催により年4回開催されています。

8日には、市内の民謡クラブなどとともに、当町から上町神楽保存会の17名が参加しました。大勢の観衆の前で、笛や太鼓に合わせて1頭の神楽が観衆の悪魔払いの舞を行った後、ヒョットコが現れてこっけいな踊りを披露。そこへさらに1頭の神楽が加わり、2頭の神楽とヒョットコによる力強く動きのある舞に、観衆から大きな拍手が送られました。新潟市内に住んでいるという女性から「神楽がまるで生きているように感じて、良かった」と話していました。



↑博物館職員による  
初期消火訓練

炎を前にした消火器訓練→

### 北方文化博物館で文化財を守る防火訓練

1月27日、豪農の館「北方文化博物館」で、博物館職員と地元消防団員、亀田町消防署と横越町分署の署員合わせて約70名が参加して、降りしきる雪の中で防火訓練が行われました。この訓練は、貴重な文化財を所蔵している同館の保護を目的に、1月26日の文化財防火デーの一環として毎年実施されています。

訓練では、館内のかやぶきの「刈羽民家」から出火したとの想定で、博物館職員が火災報知器を鳴らし、119番へ通報。見学者の避難誘導と、博物館職員による自衛消防団が消火ホースを使った初期消火訓練を実施しました。また、地元消防団による古井戸を防火用水として利用した放水訓練、消防署員による消防梯子車などを使った放水訓練、救助隊によるけが人の捜索・救出活動も行いました。その後、万一の火災にあわてずしっかり初期消火ができるよう、博物館職員の皆さんは消火器の扱い方を何度も繰り返して練習したほか、博物館内の消火器などの点検も行い、いざというときに備えました。

### 地域の方々などが集まり 幸せを願って、大栄寺で恒例の豆まき

2月3日、曹洞宗の修験道場として名高い沢海の大栄寺において、恒例の豆まきが行われました。雪がちらつく厳しい寒さにもかかわらず、地元をはじめ近郷などから、子どもからお年寄りまで多くの人たちが集まりました。

住み込みの修行僧たちは、毎月1日と15日に地域の一軒一軒の家庭をまわって托鉢の行を積んでいるほか、1月10日から2月3日までの毎日、どんなに吹雪や寒さの厳しい時でも寒行托鉢を行い、修行に励んでいます。

この寒行の最終日である節分の日の夕方、鐘と木魚の音が鳴り響く本堂で、僧侶たちは厳粛に儀式を開始。「大般若経」を素早くめくっていき転読を行い、地域の皆さんの幸せを願って唱和を行いました。

その後、豆やお菓子などが次々と勢いよくまかれると、集まった人たちは歓声をあげながら拾い集め、節分行事を楽しみました。



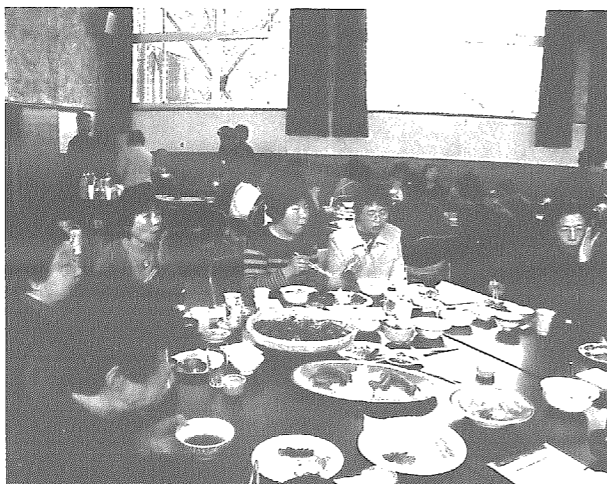
### 町内産の食材をたくさん使った 「よこごしの味を楽しむ集い！」大盛況

2月21日、「よこごしの味を楽しむ集い！」がJA亀田郷みなみ女性部と阿賀の里づくりよこごしの主催により中央公民館で開催されました。

町内外から参加した約50名の前には、具がたっぷりの横越鍋やジューシーなソーセージ、打ちたて茹でたのそば、長いものグラタン、むかご（長芋のつるにできた小芋）の素揚げ、なしのデザートなど食材と作り方にこだわった逸品12品が登場。

今回はじめて参加したという新発田市の女性グループは、「おそばがシコシコしていておいしい。鍋もちょうどいいお味。とてもおいしい」と笑顔で語り、初めてむかごを食べたという女性は、その味わいに驚いた様子で、熱心に質問したり、同じテーブルの参加者と楽しい話の輪が広がっていました。

また、横越の“むかし語り”や尺八の演奏のほか、お米や野菜などが当たる横越町に関するクイズで盛り上がり、大満足のひとときとなりました。



横越が誇る自慢の食材の数々をみんなでおいしく頂くこの集いは、今年で9回目。大盛況でした。



### 元気よく「鬼は外！ 福は内！」 各保育園で節分の豆まき

2月3日、各保育園で節分の豆まきが行われました。中央保育園では、約140名の園児たちが自分で作った鬼のお面をつけて遊技室に集合。赤や青、黄色、四角や丸い顔、かわいい表情や怒った表情など、様々な鬼が勢ぞろい。「体の中に悪い鬼はいないかな？」と尋ねられ、怒りんぼう鬼、好き嫌い鬼、泣き虫鬼、おしゃべり鬼などがいると、園児たちは答えていました。

園長先生から鬼が豆を嫌になった話を聞いた後、ピアノに合わせて「まめまき」の歌を元気よく歌いました。すると、大きな声を張り上げながら金棒を持った赤鬼が登場。怖がって保育士に抱きつきながら泣く子などがいましたが、全員で「鬼は外！」と叫び、豆を投げて鬼を退散させました。その後、ステージから園児たちが「鬼は外！ 福は内！」と大きく叫びながら豆をまき、仲良く年の数だけ豆を食べて、みんなの中にある心の鬼を追い払いました。